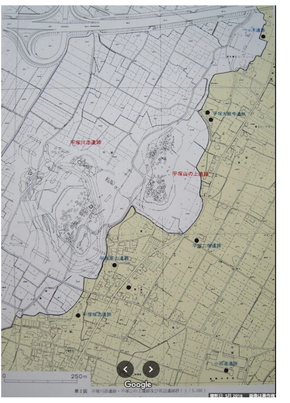
卑弥呼の墓

魏志倭人伝の邪馬台国は朝倉(あさくら)である。

女王国が福岡県朝倉市、平塚遺跡の地であったとして、卑弥呼はこの環濠集落に埋葬されたとするのが一般的ではなかろうか。

邪馬台国は筑後川に流れ込む二つの川、佐多川と小石川とに囲まれた広大な環濠集落であり、筑後川下流の佐賀県神埼市、吉野ケ里遺跡（117ヘクタール）より広い。その広さを確定が出来ないのは、工業団地等の開発で半分以上が破壊されているからである。

平塚遺跡の主要領域は小石川添いの「平塚川添遺跡(ひらつかがわぞえ)」と「平塚山の上遺跡」によるが、その南東部に広がる領域にも遺跡が存在する。



吉野ケ里遺跡も筑後川に流れ込む二本の川、田手川と城原川とに挟まれた環濠集落である。平塚遺跡も吉野ケ里遺跡も地理的条件は良く似ている。吉野ケ里では、最近発見された王墓と思われるものは、同じ遺跡内の小高い丘にあった神社の下に眠っていた。

一方、卑弥呼の墓は「平塚川添遺跡」領域にないので、筆者は東側の「平塚山の上遺跡」にあったのではないかと思うが、すでに工場等で破壊されているので、確定は不可能である。他に候補地があるとすれば、卑弥呼の農事に由来する「長田」という土地の北にある「長田大塚古墳(おさだおおつか)」であろう。そこは平塚遺跡から約十キロ筑後川を遡った所にある。円墳で大きさも魏志倭人伝の記述と符合する。

本稿の主張は、魏志倭人伝に云う邪馬台国が確定されたなら、この女王国内か近隣に卑弥呼の墓、または祀られた神社がある筈だ、というものである。更に、卑弥呼は天照大御神であるという主張の布石でもある。

そもそも、「卑弥呼」とは誰か。恐らく、女王が送った魏への使節は国名と王名を聞かれたはずである。使節は、国名は「邪馬台国」、女王の名は「卑弥呼」だと言ったことだろう。魏の官吏にはどう聞こえたかである。魏志倭人伝の原文では「邪馬臺国」と書かれているので、国名は上古代音では「ヤマダ（イ）」と聞こえたのである。聞こえた音を自国の漢字であらわすことを「借字」という。で、聞いた官吏は、借字として「耶馬臺」という漢字を書き、借字の発音ルールで「臺」の二音目は無音となった。即ち「ダ」である。日本では、後代、字面を見て日本語読みを行い、ヤマタイ国と呼ばれるようになった。

「我々は、ヤマダ国から来た。

王は女王で、ヒノミコ（日の巫女(ひみこ)）様と呼んでいる」

「エッ？　ヒミコだな」と聞こえて、

借字として「卑彌呼」と漢字をあてたわけである。卑弥呼の墓がある場所は、今は朝倉市、山田という。山を背後に控え、美しい田んぼが広がる国である。「日の巫女」は実名ではなく、尊称である。当時の巫女は、現在のように神社にいる「若い女の子」の立場ではない。神に問い、神の意向を受取る、れっきとした聖職者である。その権威は王と匹敵した。然るに、各王国に共立された巫女は夫々の王権より上位にあり、連合国の頂点に立つ。それが卑弥呼であった。卑弥呼は太陽を拝するので、日の巫女と呼ばれたのだ。

卑弥呼は何故、天照大御神なのか。それは、卑弥呼の実名がアマテラスであり、この地に生きていたからだ。この名は土地の名前、即ち、「朝倉」の地名にもなった。アマテラスを祀る神社も無論、朝倉に在る。ネーミングの謎解きは筆者の考えではない。地元の歴史として、下記に郷土史家の説明がある。

但し、卑弥呼を天照（アマテラス）大御神と比定するには、名前の由来だけでは不十分であり、その証左は稿を改めることとする。

令和五年十二月三十一日

大中臣正比呂　記

補注、

字の並びで、「麻豆良須神社(まてらす)」を草書体で書くと、「麻氏良布神社(まてらふ)」の草書体と全く同じになる。従って、この地（朝倉）にある「麻氏良布神社(まてらふ)」は、元々は「アマテラス神社」と発音すべき神社であったのである。神社名の三文字、「麻豆良」と「麻久良」も草書体の字形は全く同じである。後段の「麻久良」を「麻久良(あさくら)」と読ませると、現在の地名の「朝倉(あさくら)」となるが、その原因は後の風土記編纂における朝命で、地名は「二文字」で適切な名前にせよと通達されたからである。日の巫女を頂き、朝日に輝く穀物倉庫の豊穣さに由来して、「朝倉」としたのではなかろうか。

卑弥呼の墓『長田大塚古墳（おさだおおつかこふん）』

この古墳は、本来の基底部は周辺里道までで、卑弥呼の墓の「径百餘歩（中国魏の一歩は六尺、一尺は約24.2cm）」に近い、我が国最大の円墳です。

斉明天皇は、西暦661年5月9日、中大兄皇子や文武百官を伴い百済救援のために朝倉を訪れ、その時に、ここにあった朝倉社（麻氏良布神社）を東（夏至の日の出の方向）の朝倉山（麻氏良山）の山上に移設し、その社の杜の木で宮（朝倉橘広庭宮）を造営して、ここに滞在しました。しかし、到着から75日後の7月24日に、この地で崩御しました。

麻氏良布神社は、姪子を含めた天照大神の家族全員（伊弉冊の尊は須川の別所神社に分祀）を祀った神社です。

草書体の布と須、豆と久のくずしは同一で、氏の正式書体は弓です。よって、置換して読みかえれば、麻氏良布は麻氏良須でアマテラス、麻氏良は麻久良でアサクラとなり、つまり、朝倉の語源は麻氏良で、麻氏良布神社はアマテラス神社と思われます。

天照大神は太陽神で、日神と大日孁尊が別名です。孁と霊は同一字、冠の「雨」は天の意、つまり、天と交信して神に仕えるものです。また、下部の巫と女を並べれば「巫女」、神子の読みは「みこ」なので、日神・大日孁ともに「日巫女」の意です。これが、伊弉諾尊から天のことを統べる命を受けた天照大神の字であり、魏志倭人伝の「卑弥呼」は、その音の借字と思われます。

女王の都の国名の「邪馬壹」は、元来は「耶馬臺」で、中国古音韻の借字読みは「ヤマダ」です。そして、天照大神が初めて稲の種をまいた御田の名は、長田です。

よって、朝倉（麻氏良＝アマテラス）国の、山田（耶馬臺）の長田（天照大神の御田）の、径百餘歩のこの古墳が、女王卑弥呼（日巫女＝天照大神）の墓と思われます。

全国邪馬台国連絡協議会　九州支部
甘木朝倉まちの駅運営協議会